

Ⅲ. 基準ごとの自己評価

基準 1. 建学の精神・大学の基本理念及び使命・目的

1-1. 建学の精神・大学の基本理念が学内外に示されていること。

(1) 事実の説明（現状）

1-1-① 建学の精神・大学の基本理念が学内外に示されているか。

本学の建学の精神は、学則においても「本学は、教育基本法及び学校教育法の趣旨に基づき、豊かな教養と専門的知識及び技能を授けるとともに、本学の建学の精神に則り、人物教育を主眼とし、個性を伸長して実践的人物を育成し、広く社会に寄与することを目的とする。」と定めている。

この建学の精神である「一に人物、二に伎倆」については、現在においても入学式から卒業式までの年間を通じ、様々な行事、催し等において度々言及されている。また、キャンパス内には創設者のレリーフや彫像が設置され、そこには、この言葉が彫り込まれており、誰でも容易に目にするのできるものとなっている。

求めるべき人物像としての「慈・忠・忍」については、「桜は桜、松は松」と同様に多くの機会に用いられ説かれてきており、今の学風を形作る大きな要素となっている。また、「慈・忠・忍」の文字そのものをデザイン化したものが校旗にもなっており、その外各種印刷物の表紙・裏表紙等には、シンボリックデザインとして多く用いられている。

これらの語句に表現される建学の精神・大学の基本理念は、本学の発行する入学案内や要覧をはじめ広報誌等の外、ホームページ等にも紹介をして学外にも周知を図っている。

(2) 1-1 の自己評価

建学の精神・大学の基本理念については、これ迄様々な機会や手法を通じて、本学学生や教職員あるいは本学園、大学関係者の外、本学への入学を志望する者、本学と関わりを持つ人々や機関等に対しても趣旨の周知普及に努めてきた。

「一に人物、二に伎倆」であれ、「慈・忠・忍」であれ、または「桜は桜、松は松」であれ、その本質は連綿と継承されている。しかし、建学の精神の解釈については、その時代時代に応じた表現とするのが、むしろ相応しく、この点の対応が課題となる。またそれを前提に学生に対して建学の精神を現代にふさわしく体得させる手段を検討することが課題である。

(3) 1-1 の改善・向上方策（将来計画）

I-2-(3)、(4) で述べた建学の精神の現代化と現在における本学の使命及び目的につき、学生に対しては入学時のオリエンテーションや1年次のゼミナール（必修）において周知徹底をはかるとともに、学外に対しても、各種媒体の利用可能性をさらに検討する。

1-2. 大学の使命・目的が明確に定められ、かつ学内外に周知されていること。

(1) 事実の説明（現状）

1-2-① 建学の精神・大学の基本理念を踏まえた、大学の使命・目的が明確に定められているか。

本学においては、「建学の精神・大学の基本理念」は、建学以来明確に定められ、受け

継がれてきたのに対し、「大学としての使命及び目的」については、今日にいたるまで一定の語句として具体的に示されてはこなかった。

これは本学が基本理念・教育方針として掲げる「商業教育を通じた人間教育」・「実学教育」をおろそかにしてきたことを意味するものではない。本学は、その時々時代の背景への洞察を基礎に将来への展望を見定め、教育機関として担うべき役割や進むべき道筋を、自らその時代に応じた必然的な結果として導き出し、われわれの拠って立つ精神や理念を、実際の行動によって具現化してきたという経緯による。

したがって具体的には学則に規定された各学部・各研究科の教育目標に示されている。

1-2-② 大学の使命・目的が学生及び教職員に周知されているか。

「大学の使命・目的」については、明確に定めてはいないが、本学の基本理念・教育方針および各学部・各研究科の教育目標を基に、教育目標は「学生ハンドブック」に明記され、さらに学生及び教職員には学内行事や広報媒体を通じ、周知徹底している。

1-2-③ 大学の使命・目的が学外に公表されているか。

本学においては前項にも記したように大学の使命及び目的を明確に定め記したものはなく、長年にわたる学園及び大学の運営の実体がそれを示してきた。各学部・各研究科の教育目標や方針については、「大学案内」やホームページ等で公表している。

(2) 1-2 の自己評価

大学の使命・目的の学生及び教職員への周知と学外への公表に関しては、定型的内容や様式をもって行ったことはなく、教育研究あるいは大学運営の実態によって現してきたことになる。しかし大学の規模拡大と充実につれて使命・目的の解釈にも多様な観点が生じてきており、さらに急速な時代の推移と諸環境の変化の中で、大学の使命・目的を明確とすることが課題である。

(3) 1-2 の改善・向上方策（将来計画）

大学の使命・目的については、運営戦略会議を軸に時代に即応した明確化を行なう。

それに基づき、学内に対しては、学生便覧や学内報、その他印刷物への掲載明記や諸行事での趣旨説明を行うとともに、具体的な行動指針・行動計画の策定を行い、本学の明確な姿勢として計画的に実行に移していく。その際には上記の諸施策に加えて、情報機器を利用した視覚的かつ簡明な教材・広報媒体の開発、学生が本学の使命・目的について学ぶ機会のより積極的な提供などを実施していく。また学外に対しては明確な使命・目的をあらゆる媒体を使って公表発信していく。また、地域連携等を中軸に本学の基本的姿勢を具体的・計画的に日常的行動を通じて、周知し、理解の深化を図っていく。

[基準1の自己評価]

本学の建学の精神・大学の理念については、「一に人物、二に伎倆」とする人間教育を根底に据え、100年をきざむ教育研究活動の中で「人間教育即ち実学教育」としてその具現化を成し遂げてきた。名古屋女子商業学校として発足以来、本学園を巣立った者が、地元経済界をはじめとして広く活躍しながら、この訓育を自らの活動の支柱として堅持し定着させてきたことは、よく知られていることでもある。

しかし、長年に亘り受け継がれてきた精神・理念であっても時代の様々な変化は、その本質にさえ影響を与え、変容を迫る場合も皆無とは限らない。

本学においては連綿と受け継がれてきたこの精神・理念とその歴史をこれからもより正

確に広く学内外へ周知するため、利用可能な全ての媒体を使って、出来る限り理解を深めるよう努めている。

[基準1の改善・向上方策（将来計画）]

本学の建学の精神、基本理念を学生及び教職員等が十分に理解し、日々の行動に始まり将来への活動へ反映させていくことが基本的に重要なことである。このため、学内環境としての周知徹底は勿論ながら諸々の媒体と機会を使って、その本旨を構成員全体が一定の水準で体得できるよう努めていく。また、カリキュラムの中にも一定の時間を折り込むことにより、学生と教職員が共通の基盤の上で理解を深められるよう積極的に進めていきたい。学外に対してもその本旨を広く経済界を含め社会全体にあらゆる媒体を利用して周知していく。使命及び目的については、特に学内においては、時代を捉え将来を見据えた方向性を常に検討し協議するシステムを充実し定着していく。また学外からも多様且つ能動的な意見や提言を積極的に受入れる姿勢を持つ体制を設けていく。